

当院における腎癌手術症例の検討

1. 研究の背景

泌尿器科癌の診断や治療は、泌尿器科診療において資源をもっとも必要とする分野のひとつです。また、泌尿器科癌の患者数は多く、診断や治療も疾患ごとに多様です。

腎癌は成人の腎実質に発生する悪性腫瘍の85～90%を占めており、わが国の2010年の腎細胞がん死亡数は男性約2.7千人、女性約1.3千人で、男女ともがん死亡全体の1%を占めます。腎癌は放射線治療や抗がん化学療法に対する治療効果に乏しく、治療の原則は手術です。2017年に腎癌診療ガイドラインが改訂され、今後も科学的な手法に基づいて実行され評価された研究成果を踏まえた診療が必要になると思われる。

2. 研究の詳細

目的：当院における腎癌の手術症例を後ろ向きに調査し、これまでの腎癌に対する診療がエビデンスに沿って行われてきたか検討する。

方法：当院の手術台帳から対象患者を抽出して、泌尿器科診療録から必要な患者データを取得し、統計学的手法を用いて評価する。

3. 目標症例数と研究実施期間

2007年1月～2017年9月末の期間において当院泌尿器科にて腎癌の診断で外科的治療を行なった患者

4. 研究実施者、情報管理責任者及び連絡方法

研究責任者：地域医療機能推進機構金沢病院泌尿器科上野悟

情報管理責任者：同上

研究分担者：同病院泌尿器科部長高島三洋

TEL: 地域医療機能推進機構金沢病院(代表) 076-252-2200